

室原文楽保存会（養老町）

今から約二三百年前の文政年間（一八二八～三〇）に、土佐の茂兵衛という人が室原に巡業へ来た際、病にかかりこの地に住み着きました。彼はこの人形浄瑠璃を後世に伝えるべく、有志をつのり、これを伝授しました。これが室原文楽の始まりといわれています。

古いことは記録がなく、よくわかつていませんが、文楽に一番熱中したのは、昭和四年の御大典の頃だったといいます。また、昭和三十年頃までの室原にある熊野神社の例祭では、三輪の曳軸で子供歌舞伎が行われ、室原文楽保存会でその世話方をしたといいます。室原祭りと室原文楽保存会は深く関わりがあったと推測されます。

室原文楽の文楽人形の特徴は、着物を付けても三十センチから五十センチと小さく、指で操作ります。頭は現在五十個程ありますが、名前わからるものが多く、使う数も少なくなっています。

また、屋台（芝居小屋）は座敷での上演を目的に作られており、組み立て式になっています。一間（約三・六メートル）あれば設置が可能です。



地芝居・伝統芸能フェスティバル

清流の国ぎふ
フエスティバル

白山比咩神社獅子舞保存会（恵那市）

白山比咩神社獅子舞保存会（恵那市）

白山比咩神社の獅子舞は、信州小諸城主の松平乗紀が岩村に転封されたときに、嫁獅子を導入しました。その子乗賢も父の遺志を継ぎ、より一層文教政策に力を入れました。嫁獅子による獅子舞は、乗賢が家督を継いだ享保二（一七二七）年ごろからますます盛んになり、下手向白山比咩神社にも伝わり、「悪魔祓い」「道行き」「宮入り」などの奉納獅子舞が定着したといわれています。

その後、大正十三年、岩村の三浦半佐が嫁獅子を主役にして歌舞伎のさわり場面を上演するようになり、下手向でもこれを習つて神社の祭礼に奉納するようになりました。「妹背山」、獅子芝居は、長年、青年団の間に受け継がれて継承されてきましたが、少子化の影響で後継者が減少してきましたため、昭和六十三年六月に保存会を設立。同年十月に旧山岡町の無形文化財に、平成二年には岐阜県重要無形民俗文化財の指定を受け、青年団に協力して伝承に努めています。



地芝居・伝統芸能フェスティバル

清流の国ぎふ
文化祭2024

2024年10月27日（日）

◆会場：ぎふ清流座（ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール）

◆開演：13時30分（開場12時30分）

◆上演外題・出演

13時30分（30分）
傾城阿波の鳴門 順礼歌の段

14時20分（30分）
伊達姫恋舞 鹿子 火の見櫓の段

14時55分（30分）
関政千両職 稲山内の段

15時45分（30分）
白山比咩神社獅子舞保存会（恵那市）

特別プログラム

小糸洒

筑前琵琶奏者 田中旭泉×

大井文楽保存会（恵那市）

田中旭泉

終演16時15分（予定）演目等は変更となる場合があります。

大井文楽保存会（恵那市）

大井文楽は、昭和二十六年、名古屋市大曾根の個人宅に保管されていた中京人形近松会所有の人形首三十四個を、大井町の有志が譲り受け、同好会を結成したことに始まります。この人形首は、主に阿波の人形細工師初代天狗屋久吉の作品で、二十一個が岐阜県重要有形民俗文化財に指定されています。

当地は、江戸時代から地芝居が盛んな土地柄で、義太夫を語る人も多く、歌舞伎振付師も住んでいたため、地元有志が大井文楽同好会を結成し、人形の振り付けを歌舞伎の振付師にお願いして大井町大栄座（後の大井劇場）で旗揚げ公演を行いました。その後、最盛期には二千余りの外題が上演できなっています。一間（約三・六メートル）あれば設置が可

能です。

現在、太夫・三味線・人形遣いとも人数に余裕がなく、交代要員の確保も難しいという状況ですが、公演活動以外に地元大井小学校の総合学習で文楽体験教室を行うなど、後継者育成に向けて息の長い保存伝承活動を展開しています。



筑前琵琶奏者 田中旭泉

昭和四十五年福井にて出生。昭和五十二年琵琶の収集家であった祖父の影響を受け、矢吹旭津美師匠に琵琶を習いはじめた。平成四年矢吹旭津美師匠に登竜門となる「第三回琵琶楽コンクール」にて最年少優勝。京都にて「大臣奨励賞」、日本放送協会会長賞など受賞。平成五年筑前琵琶 橋流 日本橋会師範免状取得。平成七年大阪文化祭奨励賞受賞。平成八年咲くやこの花賞受賞。平成十一年フランス・ドイツ公演（NHKインターナショナル・ワランス日本文化会館・ドイツ文化会館主催）平成十三年第二回秋月の宵筑前琵琶演奏会に出演。拠点を京都から岐阜に移し、芸道の研鑽を重ねる。今までに、小川旭典師匠、山下旭端師匠、箕浦旭声師匠の稽古も受ける。古典の日フォーラムなど多数出演。娘旭粹、息子自然との親子共演も好評を博している。令和二年恵那観光大使に就任。令和四年恵那三学塾市民講座で、子どもたちに琵琶の魅力を伝える。



◆出演
地芝居大國ぎふ応援大使
中村 獅童
葛西 聖司
◆聞き手
地芝居芸能解説者
中村 獅童
葛西 聖司
※こちらの公演のライブ配信はありません。

※詳細はホームページでお知らせいたします。

地芝居とは、地元の素人役者によって演じられる地域の根付いた、歌舞伎、文楽、能狂言、獅子芝居の総称です。現在、岐阜県では40を超える地芝居団体が活動しており、毎年各地で定期公演を行っています。また、県内には歴史ある芝居小屋や舞台が数多く現存しており、築100年を超える芝居小屋でも、毎年公演が行われています。

